

H22年度の防災WGの活動予定

1. H22年度の活動予定

H22年度の活動テーマ

- ① 「データ所在の見える化」に向けた活動
- ② 「データ仕様の明確化・共通化」に向けた活動
- ③ 「災害リスク情報の利活用推進」に向けた活動

2.「データ所在の見える化」に向けた活動予定

H21年度の検討成果

- データ所在の見える化の環境(=データ流通基盤)※の基本構成案及び機能仕様案の作成

※異なる機関に分散する災害リスク情報を一元的に検索するための環境

H22年度の検討予定

- データ流通基盤のプロトタイプを構築
 - ✓ 災害リスク情報等の検索機能の確認
 - ✓ 災害リスク情報等メタデータの登録機能及び登録負荷の確認
- データ流通基盤により二次利用可能なデータが流通することで実現する利活用イメージの提示

2.「データ所在の見える化」に向けた活動予定

試行運用内容

【①データ流通基盤の試行運用】

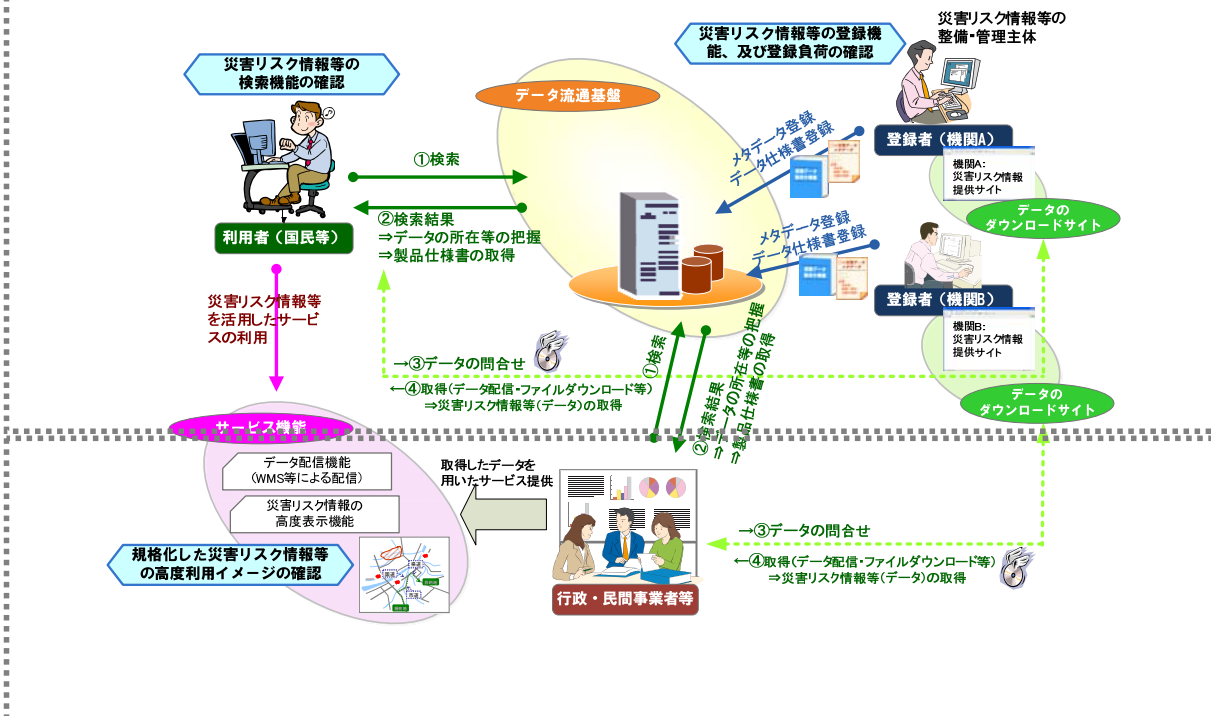
- 災害リスク情報等の検索機能の確認
災害リスク情報を効率的に検索するための機能の確認
- 災害リスク情報等メタデータの登録機能及び登録負荷の確認
データ保有者がメタデータを現実的な作業量で登録するための機能の確認

【②データ流通することで実現を期待する利活用イメージの提示】

- 二次利用可能な災害リスク情報の流通による効果や新たなサービスへの発展性の確認
 - データ流通基盤によって、規格化した災害リスク情報等が流通した場合に実現可能な利活用イメージを提示(=自治体等のデータ保有者がデータを流通させることの必要性を理解いただく)

試行運用イメージ

試行運用内容①: データ流通基盤の試行運用



試行フィールド

- 自治体(1都道府県)の協力を得て試行を実施(対象自治体は選定中)
- 試行目的を達成するために下記のような条件で試行フィールドの選定予定
選定における視点:
 - ・ 災害リスク情報の利活用効果の発展性について議論が可能であること
 - ・ 災害に対する意識が高い自治体であること
 - ・ 災害リスク情報に関するデータが豊富なこと

データ流通基盤にメタデータ等を登録するデータ

- ① 製品仕様書に基づく災害リスクデータ
- ② 試行フィールド自治体の独自様式の災害リスクデータ
- ③ 中央防災会議で作成した災害リスクデータ
- ④ その他(災害活動に役立つ基礎データ等)

※①の実施のため、②を①に変換するツールを作成する予定

試行環境におけるデータ流通基盤の機能イメージ

■登録機能

- 登録対象** ・製品仕様書(データ仕様)とそのメタデータ、データのメタデータ
- 試行対象者** ・試行フィールド自治体の職員の方
- 確認内容** ・メタデータ登録機能の作成時に作業内容で不明点や分かりづらい箇所はないか、作業負荷は大きいかな。

■検索機能

- 登録対象** ・製品仕様書(データ仕様)、データ
- 試行対象者** ・試行フィールド自治体の職員の方、防災WGメンバ
- 確認内容** ・試行シナリオに沿った検索・検索結果の参照が可能か

■取得機能

- 登録対象** ・製品仕様書(データ仕様)、データのメタデータ(データの所在情報を含む)
- 試行対象者** ・試行フィールド自治体の職員の方、防災WGメンバ
- 確認内容** ・試行シナリオに沿った製品仕様書(データ仕様書)の取得・データの所在情報の取得・データの取得は可能か

試行環境におけるデータ流通基盤の確認内容イメージ

→試行環境構築による、実現イメージの共有と課題の確認

■（シナリオ例）企業BCPの検討における事例

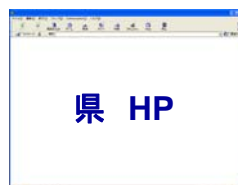
- 対象フィールド近郊の事業者が災害発生時の対応(BCP)を検討
- 本社や工場がある場所の災害リスクを把握するための調査を実施

現状 (AS-IS)

ニーズ: 東南海・南海地震発生時の揺れと液状化危険度のデータを入手したい



各機関に
個別に問合せ



課題:
機関ごとに個別に調査する必要があり、同じ条件で一元的に検索できない



課題:
HPに掲載されてなければ、データの有無や取得方法が分らない



課題:
データの緒元や利用条件等が分らない

.....

試行環境におけるデータ流通基盤の確認内容イメージ

■ (シナリオ例) 企業BCPの検討における事例

- 対象フィールド近郊の事業者が災害発生時の対応(BCP)を検討
- 本社や工場がある場所の災害リスクを把握するための調査を実施

試行内容・・・データ流通基盤があれば

ニーズ: 東南海・南海地震発生時の揺れと液状化危険度のデータを入手したい



データ流通基盤

①検索条件の入力

効果:
同じ条件で一元的に検索できる

データ流通基盤

②条件に該当するデータの所在地をリスト化

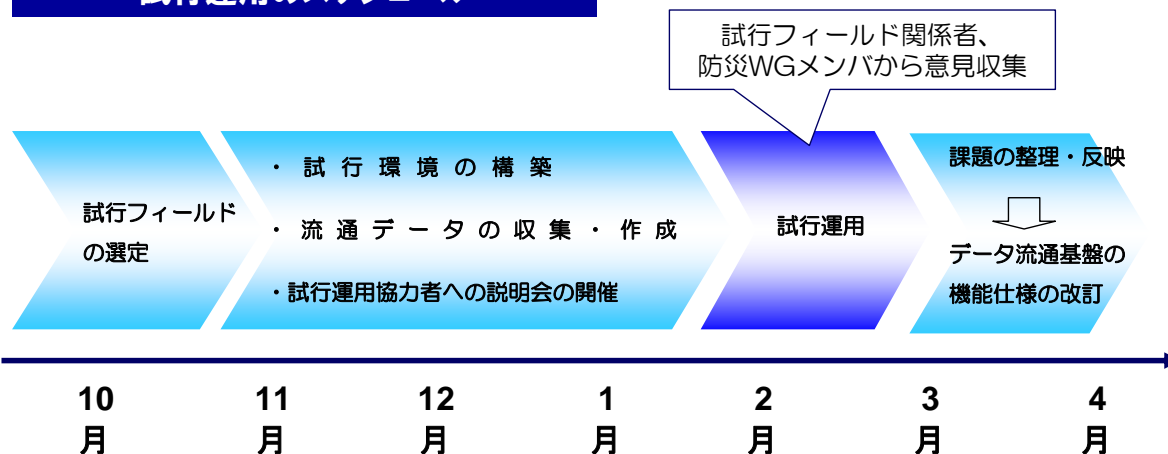
効果:
HPへの公開状況に限らず、データの有無や取得方法が把握できる

県 HP等

③データの取得

効果:
被害想定の内容、作成年等のデータの緒元を確認できる

試行運用のスケジュール



防災WGメンバにご協力いただくこと

- データ流通基盤の試行環境を利用いただき、使い勝手や追加すべき機能等に関する意見等の提示

3.「データ仕様の明確化・共通化」に向けた活動予定

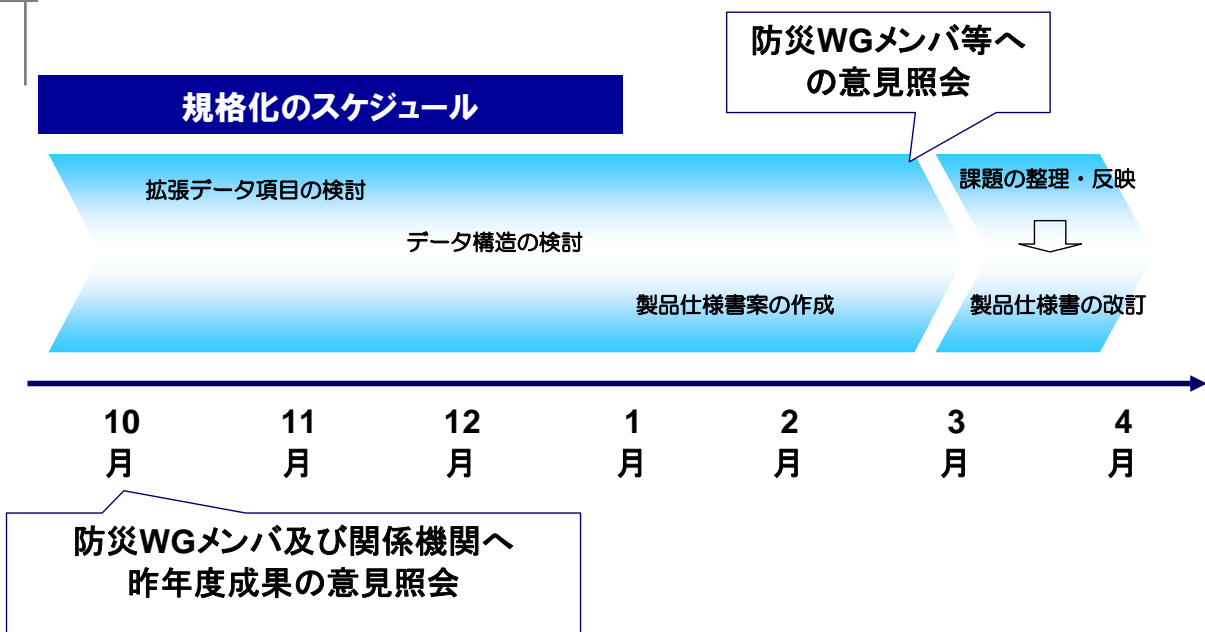
H21年度の検討成果

- 地震・津波被害、洪水被害、土砂災害被害、道路・鉄道被害に係る標準データ仕様(事務局素案)を作成
- 製品仕様書を作成手順を示すガイド文書の作成
- 災害リスク情報のメタデータ仕様書を作成

※ 規格化作業は、本来、当該災害分野を主に所管する機関が実施することが効率的且つ実用的である。ただし、検討方針等が明確にならないまま各機関で進めた場合、全体で整合が図れない可能性があるため、内閣府にて検討を実施。最終的にはそれぞれ適当な機関が災害リスク情報のデータ仕様書を作成していくことを想定。そのために、作成手順を示すガイド文書も作成。

H22年度の検討予定

- H21年度に作成した製品仕様書の改訂
 - ✓ 防災WGの関係者やデータ作成機関等から意見をいただき、内容をブラッシュアップ
- 規格化対象範囲の拡大(火山被害等を対象に規格化)
- 用語辞書のコンテンツの充実



防災WGメンバにご協力いただくこと

下記の製品仕様書について、追加すべき項目やデータ構造等の各種意見の提示

- 昨年度成果の各種製品仕様書・・・防災WGのHP※に公開予定
- 今年度対象範囲を拡張する製品仕様書・・・年度末頃を想定

※http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gis-sangakukan/seibi_wg/index.html

4. 「災害リスク情報の利活用推進」に向けた活動

防災WGにおける利活用に関する検討の背景

これまでの防災WG(部会含む)における議論から、災害リスク情報の見える化に関して、以下の事項が課題となっている。

① 防災に関する基礎情報や製品仕様書に基づいた災害リスク情報等の公開・流通の促進

- … 災害リスク情報と重ね合わせることで利活用の可能性のある基礎情報(ex.建物情報等)が不足している。
- … 行政機関等データ保有主体からの、再利用可能な形式でのデータ公開を促進する必要がある。

② 規格化すべき情報の範囲の設定

- … 防災に関する情報の範囲は広く、対象範囲を広げると防災以外の目的のために整備された情報を規格化対象とする必要がある。
- … 災害リスク情報の利活用場面は様々であり、製品仕様書において規定している情報項目について規格化の「必須」「任意」を一律に設定することが難しい。

これらの課題は災害リスク情報の利活用に関するものであり、既存の部会(標準化部会、システム化部会)における検討範囲に収まらないため、別途、解決方法を検討する枠組みが必要と考えた。

利活用推進勉強会設置の目的

災害リスク情報の見える化に関する課題を解決するために、防災WGでは災害リスク情報の利活用に関する勉強会を設置し、以下を目的として活動する予定。

① 災害リスク情報等の利活用場面の具体化

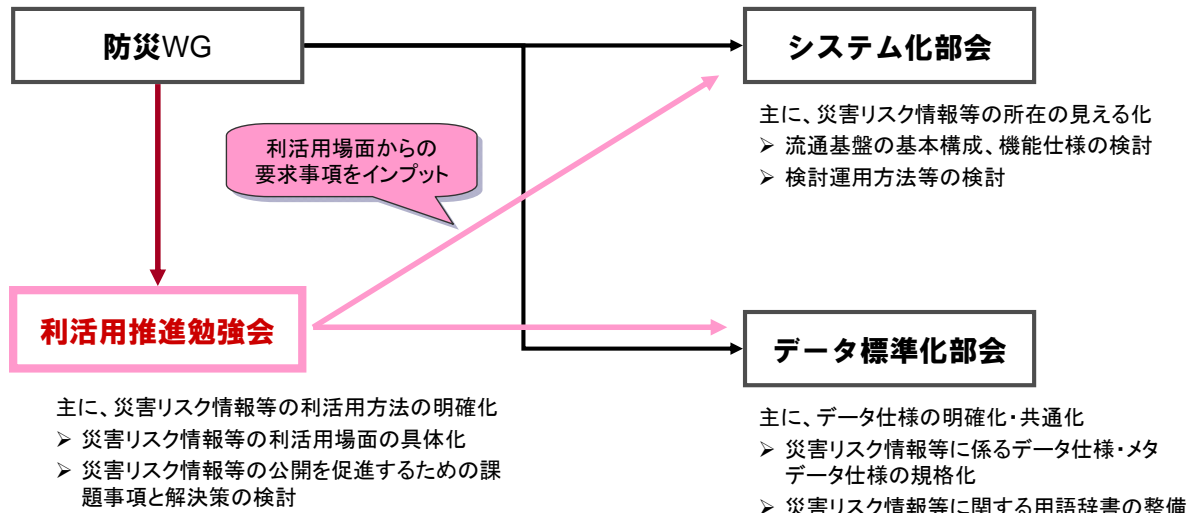
- 活用対象の情報は、現時点において規格化対象としている災害リスク情報等に限定しない
- 規格化の必須・任意の判断の前提とする利活用場面の検討
- 基礎情報や災害リスク情報等の公開に関する合意形成(公開の必要性や意義の理解)を促進するために、行政機関等のデータ所有者に具体の利活用場面を提示

② 災害リスク情報等の公開を促進するための課題事項と解決策の検討

- 基礎情報や災害リスク情報等をより流通させるための課題を整理し、解決策の方向性を議論
(ex. 個人情報の取り扱い、データ提供者へのインセンティブ等)

利活用推進勉強会の位置づけ

新たに「利活用推進勉強会」を設け、災害リスク情報等の流通のための課題等を議論する。



利活用推進勉強会の活動内容について

利活用場面を具体化するテーマの整理、利活用方法の具体化、実現に必要な情報や技術に関する課題確認等を実施する。

■ 活動内容(案)

- 利活用場面を検討するテーマの整理
- 検討テーマにおいて実際に利活用を行っている主体や検討している主体からの話題提供、具体の利活用場面の募集(情報共有サイト)
(これまでに情報共有サイト等に提案された利活用場面についても再整理し、活用)
- 利活用を行うために必要となる基礎情報や災害リスク情報等の状況確認
(現に必要な技術・サービスのあり方等についても必要に応じて確認)

※ 現時点において想定する利活用場面のテーマ候補

- 企業BCP作成
- 帰宅困難者の避難誘導等、災害時シミュレーション
- 付加価値コンサルティングサービス(ex.民間建設事業の計画・設計・積算に対するリスク判定、保険料率)
- 情報提供サービス(ex.高度な防災マップ・ハザードマップの統合・公開)等

今後の開催スケジュール

当面、勉強会メンバの公募、利活用場面を検討するテーマの整理、情報共有サイトにおける利活用場面や課題等の意見募集を実施する予定。

	H22年				H23年					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
防災WG		★					★			
利活用推進勉強会			★	★		★		★		★

■ 勉強会への参加について

- 事前登録制:勉強会の利活用テーマ(回毎に設定)に興味のある方であれば参加自由
- 詳細の内容については、随時情報共有サイト等において提供

5. 意見交換のための情報共有サイトについて

防災WG・部会では、意見交換のために「情報共有サイト」を用意しています。

利用には、事前登録が必要です。まだ、登録されていない方で参加される方については、事務局側で登録させていただきます。



「防災WG」情報共有サイトへのアクセス方法

- 情報共有サイトへのアクセスには、“ユーザID”と“パスワード”が必要となります。
 - ユーザ登録は、事務局側で実施します。
- ユーザ登録が完了すると、皆様のメールアドレスへ次の件名で、情報共有サイトへの招待メールが配信されます。
 - 件名: **[Backlog]プロジェクト管理ツールBacklogへ招待されました**
 - 送信元アドレス: **Backlog<support@backlog.jp>**
- 情報共有サイトへアクセスするためのユーザIDとパスワードが記載された重要なメールとなります。削除しないよう、注意してください。

情報共有サイトの主な機能

(1)意見交換

- WG/部会のメンバー間で、各テーマについてWeb上で意見交換を行います。

→昨年度の製品仕様書への意見照会

→試行運用環境の使い勝手等への意見照会 等々

(2)資料等の共有

- メンバー間で共有すべき資料(ファイル)をWebに掲載します。

(3)新着情報の自動配信

- 発生したイベント(意見の投稿等)をメンバーにメールで自動通知します。

(1)意見交換

- メンバーが直接トピックスを登録することができます。
 - 他のメンバーは、トピックスに対し自由に意見を追加していくことができます。

情報共有サイトイメージ

The screenshot shows a web page for a topic titled "H21DATATEST-1". The page header includes the topic name, a registration date of 2009/09/28 10:43:14, and a deadline. The main content area is titled "INSPIRE News" and contains a table with the following information:

種別	トピック	優先度	中
カテゴリー	データ仕様	完了理由	
発生バージョン		状態	未対応
マイルストーン		担当者	

Below the table, there is a "詳細" (Details) section with a user icon and the name "事務局(テスト)". The text reads: "INSPIREのデータ仕様書のガイドライン最終版が公開されました。" followed by a URL: <http://inspire.jrc.ec.europa.eu/index.cfm/pageid/201/consultation/31299>.

At the bottom, there is a "コメント" (Comments) section with a green header. It shows a comment from a user named "〇〇△△" (represented by a yellow icon) dated 2009/09/28 10:44. The comment text is: "情報提供ありがとうございます。データ仕様検討の参考にしたいと思います。" To the right of the comment are buttons for "引用" (Quote), "編集" (Edit), and "削除" (Delete).

トピックスの「題名」「種別」「カテゴリー」を表示することができます。

トピックスが表示されます。表示欄に検討資料を添付し、意見照会を行うこともできます。

トピックスに対し、各メンバーが意見を追加すると、時系列にコメントが表示されていきます。

(2)資料等の共有

- 資料掲載用のページを立ち上げファイルのダウンロードができるようにします。
 - 次回以降の部会・WG資料は情報共有サイトに事前掲示します。



(3)新着情報の自動配信

- 新着情報は次の方法でメンバーにお知らせします。
 - 情報共有サイトのTOPページ上に時系列に表示
 - 発生したイベント(意見交換等)が自動的に一覧で表示されます。
 - メンバーにメールで自動通知
 - 新着情報は自動的にメンバーへメールで通知されます。



【参考】新たな情報通信技術戦略

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部が策定した「新たな情報通信技術戦略（平成22年5月11日）」に、防災情報を2次利用可能な形でインターネット上で容易に入手し活用できるようにすることが掲げられている。

【参考】「新たな情報通信技術戦略 平成22年5月11日 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」
～一部抜粋～

ii) 災害・犯罪・事故対策の推進

内閣府を中心に関係府省が連携して、関係府省の保有するデータや地方自治体からのデータ等の標準化を早期に実現するとともに、全国の地方公共団体等の防災関係機関の防災・災害情報を政府の対策本部等ともシームレスに共有するための仕組みとネットワークの整備を推進し、情報セキュリティに十分配慮しつつ、防災情報についても原則として2次利用可能な形でインターネット上で容易に入手し活用できるようにする。さらに、地域住民の避難の高度化及び災害時における双方向の情報発信を推進する。



■行政等による災害リスク情報等の公開・流通をより一層推進させることが求められている。

→防災WGの目的と方向性は同じであるため、これらの実現を支援するための活動の実施